

第12回 文化・産業のまち部会 会議録

1 開催日 平成29年5月23日（火）

2 場所 新見市役所3階 第5委員会室

3 出席状況 出席7名（欠席1名）

部会長	森田 寿	出席	副部会長	水地 秀壽	欠席
委員	森岡 繁信	出席	委員	今田 一成	出席
委員	三上 雄二	出席	委員	多賀 紀征	出席
委員	逸見 孝明	出席	委員	田原 裕之	出席

4 事務局出席者

総務部協働推進課 2名

5 傍聴者

なし

6 議事内容

1 開会

2 あいさつ

○部会長挨拶

○事務局配付資料説明（農林課関係支援制度一覧、人口動態集計表）

3 協議

○農業について、意見交換を行った。

- ・農業については、6次産業化や流通システムが大事である。レストランと野菜の契約栽培や、酒造メーカーと酒米の契約栽培とか。「農業はいいな」というような物が出てくるといいと思う。
- ・昭和30年代までは、和牛、水稲、木炭で生活が成り立っていた。米については米価の下落や消費量の低下などで立ちゆかなくなった。
- ・米で言えば、どの品種の米が新見市での栽培に適しているかなどをデータ化して取り組まないといけない。また、いくら良い物を作っても個々に取り組むのではなく、横のつながりが大事である。
- ・一定水準の規格を定めて、ブランド力を高める必要がある。
- ・もち米だけでやろうと考えていた自治体もあったが、単独ではなかなか

かうまくいかないようである。

- ・ 地域の名前が商品名（夕張メロンなど）になるようにしないとイケない。毎年50億くらいの売上があればブランドとして定着する。
- ・ 「なわばり根性」をやめて、「新見だけよくなろう」ではなく、新見市内だけでは規模として小さいので、近隣（高梁市など）を含めた「奥備中」など、もう少し広いエリアでの考え方が必要ではないか。
- ・ J A、行政、生産者がバラバラだといいいことにならない。人づくり、組織づくりは大事である。
- ・ 「あしん源流米」という名で売っているが、実際は「魚沼産」の名前がつくとよく売れる現状である。要は、他商品との差別化を図り、ブランド力を向上させることが大事である。
- ・ 一例だが、健康志向が高い世の中なので、（医師も進める）糖度50%の米などができればいいのではないか。
- ・ 精米しすぎない方が健康にいい。それを売りにするとか。
- ・ J Aが耕作放棄地での米作りを始めたが、本来は、耕作放棄地にならないようにする取組が必要である。
- ・ 耕作放棄地対策については、市がしっかりと方針を示す必要がある。
- ・ 健康志向が高いのでヘルシー食材はいいセールスポイントだと思う。棚田米などもいい。
- ・ (ブランドで言えば) 千屋牛は、日本の和牛のルーツであるが、全国的にどこまで知名度があるか。市内で流通しているのはA3ランクまででA5ランクは都市部で流通している。
- ・ 次回までに、農林水産業における、ブランド力の向上、収入アップ、J A・市・生産者とのタイアップなどについて、それぞれ考え方をまとめて来てもらいたい。